

Title	韓国教会における平和統一路線
Author(s)	高, 萬松
Citation	聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.20-3 : 2-4
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/refs/modules/xoonips/detail.php?item_id=2655
Rights	

聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository for academic archiVE

韓国教会における平和統一路線

高 萬松

1981年6月ソウルで開かれた韓国・ドイツ教会協議会は分断国家の統一が教会の課題であると発表した。1984年10月東山荘で開かれた世界教会協議会国際問題委員会主催の会議は朝鮮半島の再統一問題を扱った。1986年9月にスイスのグリオンでは韓国・北朝鮮の教会代表者たちが分断以後、初めての会合があった。南北統一に関するこのような一連の動きによって、1988年に南・北平和統一に関する一つの宣言文が発表されたのである。本稿では、南北平和統一論を巡る韓国の教団の路線を究明し、これからの交流に方向性を模索したいと思う。

1 韓国基督教長老会の路線

「民族の統一と平和に対する韓国基督教会宣言」(以下、「統一宣言」と略記)と題する宣言文は、NCKC (The National Council of Churches in Korea、韓国基督教教会協議会)が1988年2月29日に発表したものである。統一問題を巡って南北分断後初めて民間団体からの宣言文であったことに意義がある。その宣言文に対して韓国教会は賛成と反対に分かれていて、韓国基督教長老会は「これを韓国教会全体の平和統一に対する政策に昇華させるために積極的に努力する」^(注1)と決議し、NCKCと全く一致した見解を示した。

「統一宣言」は信仰告白の後、分断克服と民族和解のための五つの原則を自主、平和、民族大団結、人道主義、民衆参与と宣布した。「統一宣言」の核心とも言うべき「分断と憎悪に対する罪責告白」と題する告白がある。分断によって『自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ』という神の戒め(マタイ22:37-40)に反する罪を犯した、と。そして、「南北朝鮮のキリスト者は各々の体制が強要する理念を絶対的なことと偶像化して来た。これは神の絶対的主権に対する反逆の罪(出エジプト20:3-5)であった」と告白する。上記の内容を見ると、1967年3月の日本基督教団の

戦争責任の告白が連想される。過去の神社参拝の問題に対する真の悔い改めがなかった韓国教会からの初めての「罪の告白」であったかも知れない。その宣言の中には、南北朝鮮緊張緩和と平和増進のための具体的実践要目として、平和協定と不可侵条約の締結、駐韓米軍の究極的撤退及び軍縮と非核化が挙げられている。

2 大韓イエス教長老会の路線

では大韓イエス教長老会が発した次の三つの宣言文を考察しよう。それらは、1972年の総会創立60周年を迎えたもの、1984年の「韓国教会百周年記念大会宣言文」、そして1991年の「韓半島平和統一に関する大韓イエス教長老会総会の立場」である。

まず、1972年9月の大韓イエス教長老会総会創立60周年を迎えての「韓国教会宣言文」である。(その記念礼拝では日本基督教団代表者も参列し、その様子が『教団新報』(1972年10月14日)に記されている。)ここでは「南北統一」関連の文章に注目しよう。「[中略]この地に福音が蒔かれて以来、民族の底辺に流れている民主主義の伝統が危うくなっていく。これを直視する今日のキリスト者はその輝く韓国教会の遺産を再度生かすべき重大な使命を痛感する。教会が忘却している伝統的な愛国愛族精神をよみがえらせ自主的民族運動を起こし南北統一の偉業を促進すべく歴史的使命が教会に賦課されている」^(注2)この宣言の発表の二ヶ月前に、韓国政府は南北が思想と理念を越えて関係を改善するという趣旨の「七・四共同宣言」を発表した。それは、その時点まで反共路線を堅持してきた当教団にショックを与えた。その余波で大韓イエス教長老会は南北統一問題を公式に「韓国教会宣言文」に始めて言及したと推察できる。

第二番目に1984年9月20日の「韓国教会百周年記念大会宣言文」である。「統一」という言葉に注目すると、「[中略]韓国教会は民族と国家の

発展と和解と統一のために自主的に参与し行動する」^(注3)という宣言文がある。

第三番目に、1991年の「韓半島平和統一に関する大韓イエス教長老会総会の立場」である。この宣言で大韓イエス教長老会は「統一」に関する路線を明確にしている。すなわち、「第一、われわれは我が民族の平和統一が究極的に歴史を主管する神の御手にあると信じているため、統一のために絶えず祈る。これが統一のために寄与できる確実な道であるとわれわれは疑わない。第二、憎みと葛藤で点綴された歴史を克服するためには何よりも平和教育の必要性を感じ、これを実践しようとする。第三、我々は基督教信仰に基づいて民族共同体内部にある根本的な葛藤と矛盾を把握し、民族共同体の基盤となる正義と自由、そして和解の根本を形成すべきことを証言する。このようにして民族共同体の中にある敵対関係の構造を克服し、民族相互間の信頼と民族同一性回復に寄与するであろう。第四、聖書の平和に関する教えを土台にして韓半島の平和、我が民族の平和のビジョンをつくり出す課題を担うであろう。これが統一した我が民族の明日を提示する課題の意味である。第五、われわれは統一以降を望み全民族の福音化と宣教に準備する。第六、このような課題を遂行するに当たって我が韓国教会は世界教会の平和運動と連帯を持続し強化する」^(注4)。

3 大韓イエス教長老会と基督教長老会の立ち位置の相違

南北統一問題を巡る韓国基督教長老会とNCKKとの間には思想的隔たりが見られない。しかし大韓イエス教長老会はNCKKの加盟教団であるにも関わらず、路線が一致していない。1994年2月21日にはNCKKの改革のために関係を保留し協力を中断したこともある。むしろ、大韓イエス教長老会は1989年に創立された「韓国基督教総連合会」(Christian Council of Korea : CCK)と深く結びついている。CCKは、元永樂教会の韓景職牧師が創立準備委員長であった教会の連合体である。その

創立の主な目的は「韓国プロテスタント教会にある保守派と革新派の葛藤を解消し、連合して教会の社会的影響力を拡大し、…朝鮮半島統一のための北朝鮮宣教にあった」^(注5)。2010年現在、韓国の教会のうち六六個の教団が加入している。勿論、CCKのうち大韓イエス教長老会が一番大きい教団であるということは言うまでもない。

韓国教会を代表する連合団体にはNCKKとCCKがある。両者は協力しつつ、事柄によっては見解が一致していないものもある。高茂松 [大韓イエス教長老会の機関紙『韓国基督公報』社長] は、分断韓国における統一路線を二つあげている。すなわち、金在俊牧師 [元韓国神学大学教授、初代日韓教会交流メンバーの一人] の統一論は右翼の立場で共産主義者を包含する統一した政府の樹立を主張し、韓景職牧師は反共親米の立場に立っている^(注6)。前者が韓国基督教長老会に、後者が大韓イエス教長老に親近性を持つ。前者はNCKKを支持し後者はCCKを支持する。また、前者は韓国神学大学を背景にし後者は長老会神学大学を背景にしている。

4 日本教会への提言

以上のような韓国教団の路線を踏まえた上で、日本教会は韓国の方の教団に偏るのではなく、特に「南北平和統一問題」については、両教団、両連合体とバランスよく交流する必要があると考えられる。

注1 http://blog.naver.com/e_library?Redirect=Log&logNo=120054665249

注2 大韓イエス教長老会総会歴史委員会編『大韓イエス教長老教会史(下)』韓国長老教出版社、2003年、214頁 [대한예수교장로회총회역사위원회편「대한예수교장로교회사(하)」한국장로교출판사]。

注3 同上書、276頁。

注4 同上書、333頁。

注5 林熙國『小さな石、大きな響き』大韓基督教書会、

2009年、139頁[임희국「작은돌,큰울림」대한기독교서회]。
注6 高茂松「韓国教会統一論と北韓教会との出会い」『教会と神学』第四一号、長老会神学大学校、2009、34頁[고무송, “한국교회통일론과북한교회와의 만남” 「교회와신학」 제41호, 장로회신학대학교]。

参考文献

長老会神学大学校100年史編纂委員会『長老会神学大学校100年史』長老会神学大学校、2002年[장로회신학대학교100년사편찬위원회「장로회신학대학교100년사」장로회신학대학교]。

大韓イエス教長老会總會歴史委員会編『大韓イエス教長老教会史(下)』韓国長老会出版社、2003年[대한예수교장로회총회역사위원회편「대한예수교장로교회사(하)」한국장로교출판사]。

李萬烈「<民族の統一と平和に対する韓国基督教会宣言>の意義」、『基督教思想』Vol.37, No. 1、大韓基督教書會、一九九五年[이만열, “민족의통일과평화에대한한국기독교회선언의의의” 「기독교사상」 Vol.37, No. 1, 대한기독교서회]。

高茂松「韓国教会統一論と北韓教会との出会い」『教会と神学』第四一号、長老会神学大学校、2000年[고무송, “한국교회통일론과북한교회와의 만남” 「교회와신학」 제41호, 장로회신학대학교]。

林熙國『小さな石、大きな響き』大韓基督教書會、2009年[임희국「작은돌,큰울림」대한기독교서회]。

(こう・まんそん 聖学院大学総合研究所助教)

日韓現代史研究センター 学術セミナー

北朝鮮問題と日韓米の対応

北朝鮮の韓国領砲撃は朝鮮半島の南北対立を浮き彫りにし、東アジア情勢は一気に緊迫した。さらに北朝鮮の核兵器開発と核実験は地域の安全保障の脅威となっている。その背景には金正日総書記から三男・正恩氏への権力移行と経済苦境がある。問題解決と地域の安定回復のためには、日韓米の協力が緊要であり、南北朝鮮関係の専門家が危機の解決法を語る。

日 時：2011年2月26日(土)13:30～16:00

場 所：女子聖学院中学校・高等学校
クローソンホール
(JR山手線駒込駅徒歩7分)

◆講演 1

「オバマ政権の東アジア政策と米朝関係」
李鍾元 (立教大学副総長)

◆講演 2

「北朝鮮の三代世襲が南北関係に及ぼす影響」
康仁徳 (聖学院大学総合研究所客員教授、
元韓国統一省長官)

◆主催 聖学院大学総合研究所

◆参加無料

お問い合わせ・参加申込みは
聖学院大学総合研究所 048-725-5524
research@seigakuin-univ.ac.jp